

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901407		
法人名	有限会社 ノースランド企画		
事業所名	グループホームらい鳥 (2階)		
所在地	旭川市末広4条7丁目5番5号末広介護支援館 ANNEX		
自己評価作成日	平成23年2月28日	評価結果市町村受理日	平成23年4月18日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人であり、密に連携を取り入居者様の健康管理を行い早期対応に努めています。外出行事や地域のふれあいサロンへの参加など家族や地域との交流も積極的に取り組んでいます。又、同法人内に3つのグループホームがあり合同のミーティング、研修会を定期的に行い職員同士の意見交換やスキルアップに努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901407&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901407&amp;SCD=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年3月25日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームは、地域にある医療法人が、これから高齢者を守る福祉のサービスとして必要性を感じ、数多く事業展開されている一つとして開設された、2番目のグループホームです。職員の入れ替わりも少なく、医療法人がバックアップしていることで、利用者も家族も安心して過ごされています。法人全体の職員教育や研修も充実しており、スキルアップや資格取得に向けての職員のモチベーションも高く、意欲的に利用者と一緒に生活しています。職務としての課題に向けての取り組みや、記録、モニタリング、カンファレンスも充実しており、重度化していく中で、利用者本位に支援されている姿が窺えます。管理者は地域への働きかけや、交流、協力関係作りを図り、利用者が、安心して過ごせるホームとして確立できるように努めています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない ○			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念の中に”地域の中で共に生きる”と掲げて取り組んでいる。	職員と一諸に作り上げた基本理念を基に、ユニット毎の年間目標・職員個々に掲げた年間目標があり、利用者の思いに応えられるよう、理念や目標を共有し実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われている”ふれあいサロン”へ参加させて頂いている。	管理者は、地域への働きかけや信頼関係作りに努めています。利用者と一緒に参加する『ふれあいサロン』は、地域の方々との交流や、馴染みの方々との出会いの場となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状としてはあまり出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	十分とは言えないが、それに向けて取り組んでいる。	運営推進会議は、公民館の『ふれあいサロン』開催に合わせ、運営報告・情報収集や健康相談・健康体操・講話を聞く場面に参加することで、運営推進会議の機会としています。	運営推進会議についてはホーム独自の開催とし、利用者・家族・地域住民や知見者・行政職員の参加を求め、地域密着型サービスとしての役割を果たすため、地域が運営を見守ったり、課題の話し合いや協力者として、関わられる場面作りを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	その都度必要に応じて、連携を取っている。	地域包括支援センター職員や市担当課と情報交換や相談、問い合わせを行い連携を図っています。ケースワーカーとの相談や、利用者の各種手続きも対応しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を定期的に行っており、理解に努めている。拘束に関してはやむおえない場合もあるがその様に取り組んでいる。	身体拘束廃止マニュアルを作成し、職員は正しい理解のもとで、ケアに取り組んでいます。ベット周りの拘束については家族と十分に話し合い、その後の会議やミーティングの中で検討を繰り返し、ケアの在り方について研修をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に法について学ぶ機会を設けたり、自己評価を行い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修予定へ組み込み学ぶ機会を持っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にそのように行っている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置、又はその都度要望があれば対応している。	家族の訪問時に要望や意見が言い易い雰囲気作りに努め、要望に応じています。家族には毎月「笑顔の花」通信を送付し、活動報告や担当職員から、生活の様子が伝えられています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時やその都度何かあれば機会を設けている。	月1回定例開催の会議で、職員の意見や提案が積極的に出され、利用者の生活の質向上やホームの運営に反映しています。職員が、今後取り組みたい提案も積極的に検討されます。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体の医療法人での研修会や同法人内の3グループホーム合同での研修会など行い機会は確保している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員補充が難しい現状で十分とは言えない。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会、研修会の参加			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限りその様に努めてはいるが、ケースにより難しい場合もある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に要望など聴いている、又、その都度何かあれば対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分ではないことが多い。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	運営理念に掲げて取り組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	難しい場合もあるが出来る限りそのように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	難しい場合も多い。	利用開始前の生活環境を大切にし、家族との関係維持や主治医への受診、ふれあいサロンでの交流、理・美容の利用、家族の協力で初詣や墓参りなど、関係継続の支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々を把握しその様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があればその都度対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行い、可能な限りその様に努めている。	センター方式活用で情報を収集し、追記により利用者の細かな行動や気付きを大切に扱い、利用者本位に伝えられるよう職員と検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを行い、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	話し合いが十分ではないこともあるが、その様に行っている。	家族の意向を尊重し、利用者本位の介護計画を作成しています。日々の的確な記録により、計画作成者を中心に毎月のモニタリング・評価・見直し・変更を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、日報、伝達ノートで情報共有し活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体が医療法人であり、グループ内でも各種サービスを行っており、必要に応じて対応。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1回地域との交流に参加させて頂いたり協働している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医以外の受診時は本人、家族へ相談してから受診している。	入居前の主治医が継続され、家族の協力や職員が付き添って、受診の支援が行われています。協力医の往診や看護師による健康管理も行われ、適切な医療支援が継続されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康チェックやその都度母体の医療法人と連携を行い支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	週1回会議がありそれに向け対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の指針について説明をしており、又、その都度状態に応じて話し合いを行う。	重度化や終末期に向けた指針が作成され、家族に説明しています。状態変化に応じて、職員・家族・医療関係者と連携を図りながら、支援できる体制となっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて定期的に行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震、水害時に関しては行っていない。	スプリンクラー・火災通報システムの設置、また避難訓練を年2回実施しています。緊急避難用救出ベルトが設置され、職員は、体験することで避難対処方法について検討しています。	災害時の安全確保と不安を取り除くために、夜間を想定した実践訓練、系列ホームとの協力体制はありますが、地域との協力体制を強化し、役割を明確にした訓練、水・食料などの備蓄についても検討を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導や声掛けの時に配慮に欠けていることがある。	職員は、利用者の尊厳を傷つけない言葉遣いや、プライバシーの確保、人格を尊重したケアに努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	嗜好品購入や本人が行いたいリハビリの支援		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	十分とは言えない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに関しては自力で行っていて、身だしなみにかかる道具や品物に関しては購入代行している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日にその方の好きなメニューを提供。又、季節ごとの行事にあわせて提供している。	利用者と一緒に調理や片づけを行い、職員は、一緒に会話をしながら食事をしています。外食や行事食で変化を付ける工夫もしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時間以外にも水分の提供。食事の足りない方に関しては代食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で行えている方多いが、不十分な所は介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄に関しては行っているが、リハビリパンツ使用の方が多い現状。	トイレ排泄を基本に排泄パターンを把握し、タイミングを図りながら、声かけ誘導により、利用者の自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動を行ったりはしているが、薬剤に頼ってしまうことが多い。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回設定。その中で本人のタイミングに合わせるようには努めているが十分ではない。	週2回の入浴体制となっています。身体状況や天候に合わせて適宜対応し、同性介助にも配慮し、一人ひとりが、ゆっくりと入浴できる支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に合わせて休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容をファイルに綴っており、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品の提供など		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏場、希望時は近隣のスーパーへ出掛けたりしている。	日常の散歩や近くのスーパーで買い物、年次計画では、花見や紅葉狩り・ホーム前で花火大会・雪まつり見学等となっています。冬期間は運動不足解消で、室内での体操やレクリエーション活動を強化しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承がある方は所持しており、夏場は希望時に買物に同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現状では訴える方はいない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物で季節感を取り入れている。	採光・室温・湿度も調整され、利用者は憩いの空間で、職員と一緒に心地良く日中を過ごせる空間となっています。清掃も行き届き、気になる匂いもなく、季節が感じられる装飾や、利用者の生活を写した写真が飾られ、潤いのある生活が窺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し憩いの場を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持ち込んでいる方もいるが入居者の状態により様々	居室には、ベッドとカーテンが備えられ、使い慣れた家具や衣類が持ち込まれ、居心地良さを工夫しています。誕生日を祝った職員手作りの大きなメッセージシートが印象的です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、手すりも設置している。		